

職業実践専門課程の基本情報について

| 学校名 | 設置認可年月日 | 校長名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|---|--------------|---|-------|--|----|--------|---|------|------|---------|---|------|------|------------|---|-----|-----|
| 名古屋ビューティーアート専門学校 | 平成26年3月29日 | 古淵 泰弘 | 〒451-0042 愛知県名古屋市中区那古野2-12-10 (電話) 052-533-3363 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設置者名 | 設立認可年月日 | 代表者名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校法人三幸学園 | 昭和60年3月8日 | 昼間 一彦 | 〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目23番16号 (電話) 03-3814-9641 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | | | | | | | | | | | | |
| 衛生 | 衛生専門課程 | トータルビューティー科 | 平成16年文部科学省告示第17号 | — | | | | | | | | | | | | | | |
| 学科の目的 | 「世の中の困難を希望に変える」をミッションとし、学校教育法に基づき、美容の関連分野において、活躍する人材を育成する為、必要とされる知識と技能を教授することを目的とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 認定年月日 | 平成28年2月19日 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | | | | | | | | | | | | |
| 2年 | 64 | 66 | 304 | 2 | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| 生徒総定員 | 生徒実員 | 留学生数(生徒実員の内) | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | | | | | | | | | | | | |
| 400人 | 235人 | 2人 | 42人 | 10人 | 52人 | | | | | | | | | | | | | |
| 学期制度 | ■前学期:4月1日～9月30日 ■後学期:10月1日～3月31日 | | 成績評価 | | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価は5点法 評価方法は期末試験という形態ではなく、授業内評価 | | | | | | | | | | | | | |
| 長期休み | ■学年始:4月1日 ■夏季:7月25日～8月31日 ■冬季:12月20日～1月10日 ■学年末:3月21日～3月31日 | | 卒業・進級条件 | | 教育課程の修了かや卒業は、所定の課程を修了し試験等に合格した者について、平素の成績及び性向を勘酌して認める。 | | | | | | | | | | | | | |
| 学修支援等 | ■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話連絡、三者面談、校内カウンセリング | | 課外活動 | | ■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 学園祭・体育祭などの実行委員 ■サークル活動: 無 | | | | | | | | | | | | | |
| 就職等の状況※2 | ■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) エステサロン、化粧品メーカー、メイクスタジオ、ネイルサロン ■就職指導内容 採用試験に向け履歴書の書き方や面接練習、企業研修など授業等を通じ実施。また、卒業生公園や企業ガイダンス実施している。 ■卒業者数: 105 人 ■就職希望者数: 77 人 ■就職者数: 49 人 ■就職率: 63 % ■卒業者に占める就職者の割合: 46 % ■その他 ・進学者数: 9人 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) | | 主な学修成果(資格・検定等)※3 | | ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ネイル3級検定</td> <td>③</td> <td>126人</td> <td>114人</td> </tr> <tr> <td>メイクベーシック検定</td> <td>③</td> <td>42人</td> <td>42人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 | | 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | ネイル3級検定 | ③ | 126人 | 114人 | メイクベーシック検定 | ③ | 42人 | 42人 |
| 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ネイル3級検定 | ③ | 126人 | 114人 | | | | | | | | | | | | | | | |
| メイクベーシック検定 | ③ | 42人 | 42人 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中途退学の現状 | ■中途退学者 37名 平成29年4月1日時点において、在学者506名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者469名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 進路変更等/経済的困難 ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 ・個人面談を実施し、個々の悩みを早期に発見・解決する。 ・入学前と入学後のギャップを埋める為、入学直前に入学予定者向けと保護者向けに学校生活や実習、就職等に関する説明会を実施している | | ■中退率 7% | | | | | | | | | | | | | | | |
| 経済的支援制度 | ■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有・無 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度・三幸学園経済支援制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第三者による学校評価 | ■民間の評価機関等から第三者評価: 有・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 当該学科のホームページURL | | | | | http://www.sanko.ac.jp/nagoya-beauty/ | | | | | | | | | | | | | |

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者や、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

主に生徒の就職先となる業界を牽引する企業等との連携を通じて、必要な情報の把握・分析を行い、実践的かつ専門的な職業教育を実施することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。
委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に活かす。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)業界が求める人材に対し、就職指導・支援内容に関する事項
- (5)卒業生支援を在学中からできる内容に関する事項
- (6)その他、教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

また、より正確に業界の動向や求められる人材要件を把握するため、生徒の就職・実習先企業や業界団体、資格・検定団体等と関係性を高め、幅広く連携を図ることで、業界の求めるニーズを確実に捉え、本校のカリキュラムや授業内容に反映する。更には、実習先である業界に対し、アンケート等を実施することにより、学生に不足する、あるいは必要とされる能力を把握する。これらのことによって得た結果も、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に活かす。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

| | | | |
|-------|--------------------------|------------------------------|---|
| 地俱 清嗣 | 一般社団法人 ビューティーネットワークOPK | 平成29年4月1日～ 平成31年3月31日(2年) | ① |
| 石澤 純子 | NAIL SPACE J'S PINKY | 平成29年4月1日～ 平成31年3月31日(2年) | ③ |
| 彦坂康広 | 花王カスタマーマーケティング株式会社 | 平成30年4月1日～ 平成32年3月31日(2年) | ③ |
| 中野 佳代 | 株式会社 アダムス医療(ラ・セーヌ) | 平成29年4月1日～ 平成31年3月31日(2年) | ③ |
| 西 英一 | HAIR STUDIO TAKAMI Group | 平成30年4月1日～ 平成32年3月31日(2年) | ③ |

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数:2回 / 開催時期:6月と1月

第1回 平成30年6月25日 16:00-17:00

第2回 平成31年1月 開催日調整中

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

業界理解の為にキャリアガイドブックを活用し、学生はもちろん教職員も理解を深め、学生一人一人のキャリア支援を行い、人間力向上に向けた教育・指導を行っている。また、業界理解・求める人物像を踏まえ、就職指導シラバスの見直し、改善を行っている。今後、卒業生支援(業界の課題でもある離職率の防止等)に向けた問題討議と在学中に反映できる事柄を検討するよう努めている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習において学内で学んだ専門的な知識をアウトプットし実践力を養うとともに、現場・社会に触れることで、ビューティー業界に求められる適切な行動・態度、そして、責任感を習得する。実習先の選定に関しては、実習生の希望をヒヤリングしながらビューティー分野において2週間の実際のサロンワークを中心とした業務を経験できるサロンに依頼を行う。実習終了後には振り返り指導を行い、学びの定着を図っている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習において学内で学んだ専門的な知識をアウトプットし実践力を養うとともに、現場・社会に触れることで、ビューティー業界に求められる適切な行動・態度、そして、責任感を習得する。実習先の選定に関しては、実習生の希望をヒヤリングしながらビューティー分野において2週間の実際のサロンワークを中心とした業務を経験できるサロンに依頼を行う。実習終了後には振り返り指導を行い、学びの定着を図っている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

| 科目名 | 科目概要 | 連携企業等 |
|------|--|-----------------------------|
| 施設実習 | 本校のカリキュラムの一環としてビューティー業界において、実習を通して学校で学んだ知識を統括を行う。また現場における実践的な技術を習得 | ピアスグループ クレディアワールドワイド株式会社 |

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

実践的かつ専門的な職業教育を実施し、美容業界・教育業界を担う「素直な心・感謝の気持ち・高い意欲を持ち続け、自ら考え自ら行動することで社会に貢献できる人材」・「お客様を美しくすることで感謝される。サロン・組織を活性化できる人材」を養成するためには、教員一人ひとりが常に業界ならびに実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけようという向上心がなければならない。その為、可能な限り早期な情報収集と共有を目的とした研修を実施している。研修で学んだことを即座に学生教育へ反映し、業界における最新の情報を習得できるカリキュラム編成や学習方法で即戦力として業界において活躍できる人材の育成に努めている。そのために、以下のとおり教員研修の環境を整える。

- ・企業等から講師を招いた実践的かつ専門的な知識・技術・技能を修得するための研修
- ・指導力の修得・向上のための研修

なお、当該研修等を計画的に教員に受講させるにあたり諸規定に定められている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「学生のうちに学んでおいた方がいいこと」(連携企業等: 卒業生・(株)不二ビューティ 等)

期間: 8月 対象: 教職員

内容: 業界人事ご担当者数社・卒業生数名を招き、新卒採用について専門学校生に求められていることなどについて、研修を実施。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「現代社会の特徴と若者の実態」(連携企業等: 佛教大学教育学部 原清治教授)

期間(平成30年4月2日) 対象: 職員全員

内容: 最近の若者の人間関係について・マスク文化の流行・学校の空気といじりの問題等

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「美容実習・技術理論」(連携企業等: 未定)

期間: 未定 対象: 未定

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「第8の習慣 リーダシップ研修」(連携企業等: リクルート)

期間: 10月24日・25日 対象: 教員

内容: メンバーの才能と能力を最大限に解放するためのリーダー育成研修

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者として、美容業界の企業様や卒業生・地域団体住民・高校関係者等と共に、学校関係者評価委員会を設置して、当該専門分野における実務に関する知見を活かして、教育目標や教育環境等について評価し、その結果を次年度の教育活動及び学校運営の改善の参考とする。

学校関係者評価は、「私立専門学校等評価研究機構 専門学校等評価基準」の評価項目を使用して実施した自己点検・自己評価の結果を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則して実施することを基本方針とする。また、評価結果は学校のホームページで公表する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|----------------|----------------|
| (1) 教育理念・目標 | (1) 教育理念・目標 |
| (2) 学校運営 | (2) 学校運営 |
| (3) 教育活動 | (3) 教育活動 |
| (4) 学修成果 | (4) 学修成果 |
| (5) 学生支援 | (5) 学生支援 |
| (6) 教育環境 | (6) 教育環境 |
| (7) 学生の受入れ募集 | (7) 学生の受入れ募集 |
| (8) 財務 | (8) 財務 |
| (9) 法令等の遵守 | (9) 法令等の遵守 |
| (10) 社会貢献・地域貢献 | (10) 社会貢献・地域貢献 |
| (11) 国際交流 | (11) 国際交流 |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(3) 教育活動

【意見】美容業界としても就職しても辞めていくのが問題。技術はいけるが、「お客さまのために」の気持ちがかけているスタッフが多いので、もっと現場を見学させる時間なども考えていく必要があるのではないか。

【活用状況】実習をはじめ産学連携により積極的に取り組み、生徒の業界理解・知識を深める機会を設けていく。

(4) 学修成果

【意見】退学問題について、今の若者は相談ではなく、決めてからの報告が多いので、生徒の早めのサインに気付く必要がある。

【活用状況】担任指導者を設置しクラス運営力の向上を図り、担任会議ではクラス状況を確認している。また退学の相談があった時点から「退学相談・申出者対応報告書」を記入して、様々な事例を分析しながら生徒指導に活かしていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|-------|------------------|------------------------------|-------|
| 小栗 慎司 | 株式会社 SHIN | 平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(2年) | 企業等委員 |
| 酒元 陽菜 | 株式会社 SHIN | 平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(2年) | 卒業生 |
| 國島 徳博 | 株式会社 インテンド | 平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(2年) | 地域住民 |
| 和田 忍 | 名古屋ビューティーアート専門学校 | 平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(2年) | 副校長 |
| 磯部 朗子 | 名古屋ビューティーアート専門学校 | 平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(2年) | 教務課長 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<http://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/kankeisya/nagoya-beauty.pdf>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドライン」に則って情報提供を実施することで、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、教職員・生徒間、学校・家庭間の共通理解が深まり、教育活動の活性化や学校運営の円滑化につなげること。

また、入学希望者やその保護者に対し、進路選択にあたっての有用な情報を提供すると共に、一人一人の能力・適性にあった望ましい進路の実現に資すること。

そして、キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、業界関係者に情報提供することで、相互の対話が促され、実習、就職指導等企業等との連携による活動の充実や、業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につなげることを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|--------------------|---------------------------------|
| (1) 学校の概要、目標及び計画 | ●三幸学園について(事業案内、経営理念、歴史) |
| (2) 各学科等の教育 | ●三幸学園の教育 ●学科紹介 ●資格・就職 |
| (3) 教職員 | ●講師紹介 |
| (4) キャリア教育・実践的職業教育 | ●インターンシップ実習 ●三幸学園の取組み(各種ボランティア) |
| (5) 様々な教育活動・教育環境 | ●施設紹介 ●三幸学園の取組み(企業・地域コラボレーション) |
| (6) 学生の生活支援 | ●学生寮・一人暮らしサポート |
| (7) 学生納付金・修学支援 | ●募集学科・学費 ●学費サポート制度 |
| (8) 学校の財務 | ●学校の財務(監事監査報告書・資金収支計算書・財産目録等) |
| (9) 学校評価 | ●自己点検自己評価・学校関係者評価委員報告書 |
| (10) 国際連携の状況 | - |
| (11) その他 | - |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<http://www.sanko.ac.jp/disclosure/>

授業科目等の概要

| (衛生専門課程トータルビューティー学科) 平成30年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|------------------|------------------|------------------------|---|---------|--------------|-------------|--------|--------|----------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実験・実習・実技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| ○ | | | ビジネス マナー | 検定取得を目指し、敬語の使い方や履歴書の書き方、ビジネス文書の書き方など、社会人としての考え方をはじめ、ルールやマナーを学ぶ授業です。 | 1年 | 66 | 4 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | カラー コーディネート | ファッションコーディネートで即戦力となるように、色に関する知識、法則、技法を理論的かつ実践的に身に着けます。パーソナルカラーコーディネートの資格取得の形をより深く観察する刀と洞察刀を養うことにより深く芸術を理解できます。またデッサン力から応用することによりコミュニケーション能力を高めることが出来ます。 | 1年 | 66 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | デッサン・ イラスト レーション | 物の形をよく観察する刀と洞察刀を養うことにより深く芸術を理解できます。またデッサン力から応用することによりコミュニケーション能力を高めることが出来ます。 | 1年 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 成功の法則Ⅰ | ビジネス書の「7つの習慣」を教材に用い、7つの項目を習慣化することにより成功する為の力を養う。 | 1年 | 33 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | |
| ○ | | | 皮膚学Ⅰ | 皮膚の働きのしくみを理解し、美しく健康に保つためのスキンケアの方法を学ぶ ・皮膚の基礎知識 ・美容上大切な皮膚の6つの働き | 1年前期 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 皮膚学Ⅱ | 皮膚の働きのしくみを理解し、美しく健康に保つためのスキンケアの方法を学ぶ ・肌の美しさを損ねる要因・様々な肌状態 ・肌と環境・肌分析 | 1年後期 | 34 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 生理学Ⅰ | 人体の仕組み、構造と働きの基本を理解する ・骨格系・筋系・神経系 | 1年前期 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 生理学Ⅱ | 人体の仕組み、構造と働きの基本を理解する ・内分泌系・呼吸器系・循環器系・消化器系・泌尿器系 | 1年後期 | 34 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 栄養学Ⅰ | 人間の栄養素の必要量、食品成分、食料の消費と経済、食習慣、食品の栄養価、食事と健康を理解する・5大栄養素・栄養所要量 ・食物摂取とその消化吸収 | 1年前期 | 16 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | |
| 合計 | | | 科目 | 単位時間(単位) | | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (衛生専門課程トータルビューティー学科) 平成30年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|------|------|---------------------|---|-----------|--------------|-------------|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | 化粧品学Ⅰ | 化粧品の法律上の扱いや分類、取扱い上の留意点、化粧品の目的と機能、使用される主な原料を学ぶ。・化粧品概論・ネイル、メイク、ヘアケア化粧品・フレグランス化粧品の原料 | 1年前期 | 16 | 1 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | エステティック概論・衛生学・関係法規Ⅰ | エステティシヤの全体像を正しく理解し、本質を知る。法の基礎知識を学び、エステティックに関わる法律、自主基準を理解する。 ・法の基礎知識・公衆衛生・衛生管理 | 1年前期 | 16 | 1 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | ベーシックエステⅠ | 身体や皮膚の生理機能に基づいたフェイシャル・ボディトリートメントを学び、エステティックの流れ、基本の手技を覚え一つ一つの手技の意味を理解する。 | 1年前期 | 64 | 4 | △ | ○ | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | ベーシックネイルⅠ | JNECネイリスト技能検定3級取得を目指し、ネイルケア～カラーリング・アートまでのネイルの基礎を学ぶ | 1年前期 | 64 | 4 | △ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | | ベーシックメイクⅠ | メイクアップ化粧品の特徴と適切な使用方法を理解すると同時に、スキンケア～メイクアップテクニックをマスターしフルメイク基礎技術を身に付ける。 | 1年前期 | 64 | 4 | △ | ○ | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | 就職対策Ⅰ | 就職の心構えや目的から伝え、企業のエントリー方法や実践的な面接指導、そして内定後までの流れを指導します。 | 1年前期 | 33 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| | ○ | | 栄養学Ⅱ | 人間の栄養素の必要量、食品成分、食料の消費と経済、食習慣、食品の栄養価、食事と健康を理解する。・栄養学から見た食品・健康と栄養・サプリメント・食品添加物 | 1年後期 | 17 | 1 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| | | ○ | 化粧品学Ⅱ | 化粧品の法律上の扱いや分類、取扱い上の留意点、化粧品の目的と機能、使用される主な原料を学ぶ。・フェイシャル、ボディ化粧品 | 1年後期 | 17 | 1 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| | | ○ | エステティック概論・衛生学・関係法規Ⅱ | エステティシヤの全体像を正しく理解し、本質を知る。法の基礎知識を学び、エステティックに関わる法律、自主基準を理解する。 ・経済行為上の身体に直接関連する法律 | 1年後期 | 17 | 1 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間(単位) | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (衛生専門課程トータルビューティー学科) 平成30年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|------------------|------------------|---------------|---|----------|--------------|-------------|--------|--------|------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験・ 実 習・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| | ○ | | スカルプチュア | JNECネイリスト技能検定1級の課題の一つとなっている、アクリル樹脂のパウダーとリキッドを使用した付け爪で、短い爪の長さを出す技術を学ぶ | 1年後期 | 51 | 3 | △ | ○ | | ○ | ○ | | | |
| | ○ | | ネイルケア&ネイルアートⅠ | ネイル技術のすべての基礎であるネイルケアとネイルアートの技術向上を目指す授業 | 1年後期 | 51 | 3 | △ | ○ | | ○ | ○ | | | |
| | ○ | | 検定対策Ⅰ | JNECネイリスト技能検定2～3級とJNAジェルネイル技能検定初級の取得を目指し技術強化していく授業 | 1年後期 | 51 | 3 | △ | ○ | | ○ | ○ | | | |
| | ○ | | ジェルネイルⅠ | JNAジェルネイル技能検定初級の取得を含め、ジェルネイルについての技術・知識を学ぶ授業 | 1年後期 | 51 | 3 | △ | ○ | | ○ | ○ | | | |
| | ○ | | コンテストⅠ | ネイルのコンペティションの出場を目指し、技術強化していく授業 | 1年後期 | 17 | 1 | | ○ | | ○ | ○ | | | |
| | ○ | | サロンワークⅠ(ネイル) | 卒業後のサロンワークを想定し、集客・接客なども含め、サロンの開店準備からオープンまでの全てを学び、実際にお客様をお呼びして施術を行っていく | 1年後期 | 51 | 3 | | ○ | | ○ | ○ | | | |
| | ○ | | ネイル演習 | JNECネイリスト技能検定2～3級の取得を目指し技術強化していく授業 | 1年後期 | 68 | 4 | △ | ○ | | ○ | ○ | | | |
| | ○ | | ベーシックメイクⅡ | 資格取得の技術と知識を身に付け、顔分析力、パーソナルメイクアップテクニックを身に付ける。 | 1年後期 | 34 | 2 | △ | ○ | | ○ | ○ | | | |
| | ○ | | ビューティークウンセリング | メイク業界で仕事をしていくための基礎知識 各化粧品メーカーの分析、肌知識からのカウンセリングテクニック、接客技術 | 1年後期 | 34 | 2 | △ | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間(単位) | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (衛生専門課程トータルビューティー学科) 平成30年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|------------------|------------------|-----------------|--|-----------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| | ○ | | 着付けⅡ | 着物文化の指導者としての検定取得を目指し、着付けの技術や着装の指導など、着物全般に対するアドバイスを行うための知識を習得します。 | 2年 | 32 | 1 | △ | ○ | | ○ | ○ | | | |
| | ○ | | エステティックカウンセリングⅡ | 顧客の悩みや状態について原因・要因を考え、的確に状態を見極め、カウンセリングシートを作成する。お手入れとアドバイスを専門的に行える知識を身につける | 2年 | 66 | 4 | ○ | △ | | ○ | ○ | | | |
| | ○ | | エステティックカウンセリングⅢ | 顧客の悩みや状態について原因・要因を考え、的確に状態を見極め、お手入れとアドバイスを専門的に行える知識を身につける | 2年 | 33 | 2 | ○ | △ | | ○ | ○ | | | |
| | ○ | | プロフェイシャルⅡ | プロフェイシャルテクニック総合（資格試験対応） クライアントに対応した知識、技術の習得・コンサルテーション・エステティック機器 | 2年 | 198 | 12 | △ | ○ | | ○ | ○ | | | |
| | ○ | | プロフェイシャルⅢ | プロフェイシャルテクニック総合（資格試験対応） クライアントに対応した知識、技術の習得・コンサルテーション・エステティック機器 | 2年 | 132 | 8 | △ | ○ | | ○ | ○ | | | |
| | ○ | | プロボディⅡ | プロボディテクニック総合（資格試験対応） クライアントに対応した知識、技術の習得・コンサルテーション・エステティック機器 ・ハンドテクニック・接客マナー | 2年 | 132 | 8 | △ | ○ | | ○ | ○ | | | |
| | ○ | | エステティック総論 | エステティック知識総合（資格試験対応） ・皮膚学・生理解剖学・栄養学 ・化粧品学・概論・衛生・自然科学・電気学 | 2年 | 66 | 4 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| | ○ | | エステティック総論Ⅰ | エステティック知識総合（資格試験対応） ・皮膚学・生理解剖学・栄養学 ・化粧品学・概論・衛生・自然科学・電気学 | 2年 | 133 | 8 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| | ○ | | エステティック総論Ⅱ | エステティック知識総合（資格試験対応） ・皮膚学・生理解剖学・栄養学 ・化粧品学・概論・衛生・自然科学・電気学 | 2年 | 66 | 4 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間(単位) | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (衛生専門課程トータルビューティー学科) 平成30年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|------|------|-----------------|--|-----------|--------------|-------------|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| | ○ | | トリートメント | 選択科目の知識、技術を学ぶ ・WAX脱毛・東洋医学・フットケア ・リンパドレナージュ・アーユルヴェーダー ・タロソセラピー・フットセラピー | 2年 | 99 | 6 | △ | ○ | | ○ | | | ○ | |
| | ○ | | フェイシャルマニピュレーション | 応用トリートメント（資格試験対応） ベーシックエステ、プロフェイシャルで学んだハンドテクニック技術、知識を深める | 2年 | 132 | 8 | △ | ○ | | ○ | | | ○ | |
| | ○ | | フェイシャルスキンケア | 応用トリートメント（資格試験対応） ベーシックエステ、プロフェイシャルで学んだフェイシャル機器の技術、知識を深める | 2年 | 132 | 8 | △ | ○ | | ○ | | | ○ | |
| | ○ | | ボディベーシック | 応用トリートメント（資格試験対応） ベーシックエステ、プロボディで学んだハンドテクニック技術、知識を深める | 2年 | 132 | 8 | △ | ○ | | ○ | | | ○ | |
| | ○ | | ボディテクニカル | 応用トリートメント（資格試験対応） ベーシックエステ、プロボディで学んだボディ機器の技術、知識を深める | 2年 | 132 | 8 | △ | ○ | | ○ | | | ○ | |
| | ○ | | ボディリラクゼーション | 応用トリートメント ベーシックエステ、プロボディで学んだハンドテクニック、知識を深める。体質別・トラブル別の施術を提案できるようになる | 2年 | 66 | 4 | △ | ○ | | ○ | | | ○ | |
| | ○ | | サロンワーク（プロ） | マーケティング・サロンマネジメント・顧客管理について学び、サロン運営を行う | 2年 | 99 | 6 | △ | ○ | | ○ | | | ○ | |
| | ○ | | サロンワーク（エステ） | マーケティング・サロンマネジメント・顧客管理について学び、サロン運営を行う | 2年 | 66 | 4 | △ | ○ | | ○ | | | ○ | |
| | ○ | | アロマセラピー総論Ⅰ | エステディック知識総合（H専攻対応） ・スキンタッチと効果・脳の誕生と進化 ・機能・脳神経の構造と働き ・心と肥満の関わり・ハーブのプロフィー | 2年 | 99 | 6 | ○ | △ | | ○ | | | ○ | |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間(単位) | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (衛生専門課程トータルビューティー学科) 平成30年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|------|------|-----------------------|--|----------|--------------|-------------|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| | ○ | | アロマ セラピー総論 Ⅱ | エステティック知識総合 (TBコース対応) ・スキンタッチと効果・脳の誕生と進化 ・機能・脳神経の構造と働き ・心と肥満のかかわり・ハーブのプロ | 2年 | 33 | 2 | ○ | △ | | ○ | | ○ | | |
| | ○ | | アロマ セラピー 検定対策Ⅰ | アロマセラピー検定対策 (H専攻対応) アロマセラピーⅠで学んだ知識の総復習 | 2年前期 | 16 | 1 | ○ | △ | | ○ | | ○ | | |
| | ○ | | アロマ セラピー 検定対策Ⅱ | アロマセラピー検定対策 (TBコース対応) アロマセラピーⅠで学んだ知識の総復習 | 2年 | 33 | 2 | ○ | △ | | ○ | | ○ | | |
| | ○ | | 国際 エステティッ ク理論 | 選択科目の知識を学ぶ ・WAX脱毛・東洋医学・フットケア ・リンパドレナージュ・アーユルヴェー ダー ・タラソセラピー・フットローレメディー | 2年後期 | 17 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | ○ | | 国際 エステティッ ク演習 | 選択科目の技術を学ぶ ・WAX脱毛・東洋医学・フットケア ・リンパドレナージュ・アーユルヴェー ダー ・タラソセラピー・フットセラピー | 2年 | 132 | 8 | | | | ○ | | ○ | | |
| | ○ | | フェイシャル &ボディⅡ | フェイシャル&ボディⅠで学んだエステ ティック機器の使用法・注意事項・禁忌 事項を学び、肌・体の状態に合ったトリ ートメントの理解を深める | 2年 | 132 | 8 | △ | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | ○ | | ネイルケア &ネイルア ートⅡ | ネイル技術のすべての基礎であるネイルケ アとネイルアートの技術向上を目指す授業 | 2年 | 99 | 6 | △ | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | ○ | | 検定対策Ⅱ | JNECネイリスト技能検定2～1級とJNAジェ ルネイル技能検定中級～上級の取得を目指 し技術強化していく授業 | 2年 | 132 | 8 | △ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | |
| | ○ | | ジェルネイル Ⅱ | JNAジェルネイル技能検定中級～上級の取得 を含め、ジェルネイルについての技術・知 識を学ぶ授業 | 2年 | 132 | 8 | △ | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間(単位) | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|----------|
| | | 1学年の学期区分 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (衛生専門課程トータルビューティー学科) 平成30年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|------|------|-----------------|--|----------|--------------|-------------|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| | ○ | | コンテストⅡ | ネイルのコンペティションの出場を目指し、技術強化していく授業 | 2年 | 66 | 4 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | ○ | | ネイルケア | ネイル技術のすべての基礎であるネイルケア(ハンド・フットの両方)の技術向上を目指す授業 | 2年 | 99 | 6 | △ | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | ○ | | ネイルアートⅡ | フラットアート・3Dアートやエアブラシなど基礎的なアートから高度なアート技術までの全てを学ぶ | 2年 | 99 | 6 | △ | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | ○ | | サロンワークⅡ(ネイル) | 卒業後のサロンワークを想定し、乗客・接客なども含め、サロンの開店準備からオープンまでの全てを学び、実際にお客様をお呼びして施術を行い、マシン技術なども学んでいく | 2年 | 99 | 6 | | ○ | | ○ | | ○ | ○ | |
| | ○ | | 検定対策&ジェル | JNECネイリスト技能検定2級とJNAジェルネイル技能検定初級の取得を目指し技術強化していく授業 | 2年 | 132 | 8 | △ | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | ○ | | ヘアアレンジ | ヘアアレンジに必要な道具の使い方から、アップスタイル・ダウンスタイルや、着物・ドレス・袴など服装に合わせたアレンジなど幅広く対応できるテクニックを身にさせる | 2年 | 66 | 4 | △ | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | ○ | | ヘアアレンジⅡ | 頭部・骨格の名称、ブロッキングの方法等を学習した後、ホットカーラー、ピン打ち、黒ゴムの結び方、編み込み、コテの使い方等の基礎テクニック習得を目指す。 | 2年 | 99 | 6 | △ | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | ○ | | ビューティーカウンセラーメイク | 幅広いメイクアップの技術とや肌の知識、カウンセリング方法等、ビューティーカウンセラーになる為の知識や技術を学ぶ。 | 2年 | 132 | 8 | △ | ○ | | ○ | | ○ | | |
| | ○ | | ブライダルメイク | 様々なドレスや季節に合ったメイク、列席者のメイクを学ぶ。その他、ブライダルの歴史等幅広く習得できる。 | 2年 | 99 | 6 | △ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間(単位) | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (衛生専門課程トータルビューティー学科) 平成30年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|------------------|------------------|--------------|---|----------|--------------|-------------|--------|--------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| | ○ | | 特殊メイク | 特殊メイク（傷・アザ・火傷・切断）・アニマルメイク・ボディジュエリーなど、エアブラシや様々な道具を使用し、撮影や現場で実践できる多様な技術を学びます。 | 2年 | 99 | 6 | ○ | | | ○ | | | | |
| | ○ | | アーティストメイク | ショーメイクからスチールメイク、年代別メイクまで、シーンに合わせたメイクの研究や違い、特徴をとらえた技術を学びます | 2年 | 99 | 6 | ○ | | | ○ | | | | |
| | ○ | | フォト | 光と影、写真のバランスについての撮影練習から、ライト・ストロボの関係性を実習を通して学んでいきます | 2年前期 | 16 | 1 | ○ | | | ○ | | | | |
| | ○ | | ファッション | メイクとファッションの関係性からファッショントレンドを研究し、メイクデッサンや表現方法を学びます | 2年後期 | 17 | 1 | △ | ○ | | ○ | | | | |
| | ○ | | ヘア&メイクⅡ | 洋装・和装を含めたシーン別のヘアスタイルが作れ、提案できる技術を習得する。現場をふまえ、お互いに相モデルで技術を行う | 2年 | 132 | 8 | △ | ○ | | ○ | | | | |
| | ○ | | トータルメイク | メイク検定アドバンスの対策を行い、撮影、ブライダル、アーティストと現場に必要な技術と知識を習得する | 2年 | 99 | 6 | △ | ○ | | ○ | | | | |
| | ○ | | サロンワーク(メイク) | 卒業後のサロンワークを想定し、接客などを含めサロンの開店準備からオープンまでの全てを学び実際に置く約様をお呼びして施術を行なっている | 2年 | 132 | 8 | △ | ○ | | ○ | | | | |
| | ○ | | サロンワーク(トータル) | 卒業後のサロンワークを想定し、接客・接客なども含め、サロンの開店準備からオープンまでの全てを学び、実際にお客様をお呼びして施術を行い、マシーン技術なども学んでいく | 2年 | 66 | 4 | △ | ○ | | ○ | | | | |
| | ○ | | 施設実習 | 現場での実習勤務を通して、1日及び1週間の流れを学び、お客様を迎えるまでの準備や施術中の役割の理解を深め、接客の基本姿勢を学んでいく | | 80 | 2 | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| 合計 | | | | 科目 | 単位時間(単位) | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|------------|----------|---|
| | 1学年の学期区分 | 期 |
| | 1学期の授業期間 | 週 |

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (衛生専門課程トータルビューティー学科) 平成30年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|------------------|------------------|-----------|--|----------|--------------|-------------|--------|---------|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| | | ○ | 教養・文化の学習A | 社会に出るにあたり、自らに必要な技術知識の習得や文化学習を行う（美容・健康・保育・福祉など） | 1 年前期 | 20 | 1 | | | | | | | | |
| | | ○ | 教養・文化の学習B | 社会に出るにあたり、自らに必要な技術知識の習得や文化学習を行う（美容・健康・保育・福祉など） | 1 年後期 | 20 | 1 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | 31科目 | 1796単位時間(| | | 106 単位) | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|--|----------|-----|
| <p>【履修方法】</p> <p>●講義及び演習科目については15時間から30時間の授業をもって1単位とする。実習及び実技科目については30時間から45時間の授業をもって1単位とする。各科目授業内テスト（実技科目の評価方法は実技・筆記テストを原則実施）の100点満点での素点からの5点法による評定とし、「2」以上でその科目の履修と見なす。</p> <p>【進級・卒業要件】</p> <p>●授業科目の履修を終了した者には、認定のうえ単位を与える。単位の認定については、各科目における試験及び演習・実習の評価によるものとする。</p> | 1学年の学期区分 | 2期 |
| | 1学期の授業期間 | 33週 |

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。